

トピックス

1～2ページ: GPIFを巡るESGに関する最近の動向

3ページ: 「IRカンファレンス2016」のお知らせ(再掲)

JSS Clairvoyance

第123号 2016. 11. 29



GPIFを巡るESGに関する最近の動向

11月25日に年金積立金管理運用独立行政法人(以下、GPIF)は平成28年第2四半期の運用状況等について公表しましたが、以下では表面的な数字には現れない最近のGPIFを巡るESG活動について、各種報道での公表や最近のAsian Corporate Governance Association (ACGA) 東京大会をはじめとする各種会合等で表明された見解も交えて整理してみました。

【ESG投資への過去1年間の取組】

(1) 動向

- 2015年9月 国連責任投資原則(PRI)に署名
- 2015年9月 ESGを考慮した運用で超過収益が獲得できるか研究開始
- 2016年7月 パッシブ運用への実現可能性を探る目的でESG要素を考慮した指数の公募
- 2016年11月 水野理事長兼CIOがPRI理事に選任
- 2016年11月 英国の30%Club、米国の30%Coalition(注)へオブザーバー加盟

(注) 30% Clubとは、「ジェンダー・ダイバーシティー(性別の多様化)」が図られた取締役会は、組織のリーダーシップやガバナンス機能を強化するだけでなく、取締役会のパフォーマンス向上、及び企業の業績を向上させる」との考えを共有するメンバーによって設立された団体である。30% Clubは、英国が発祥。米国においては、30% Clubは大企業の集まりであり、機関投資家は別に設立された30% Coalitionで協働して活動している。(GPIF公開資料よりJSSが抜粋)

(2) 見解

• (全般的な見方)

GPIFは超長期の投資家としてESGを投資のリスクファクターとして認識すべきだと考えている。

ESG投資は投資効果の検証が難しいが、GPIFでは投資のリスク削減にESG投資の価値があると整理した。但し、投資リターンを犠牲にしてESGに取り組むものではない。理想とするESG投資は、①投資活動におけるプラス・アルファを実現する、②投資に関わるリスクを削減する、の両方か、どちらかを満たす必要があると考えており、必ずしもプラス・アルファの稼得に拘泥するものではない。

(なお、GPIFは国連責任投資原則(PRI)に署名した際に、「ESGの取組みに係る基本方針」を公表しています。詳しくは、http://www.gpif.go.jp/topics/2015/pdf/0928_signatory_UN_PRI.pdf ご参照)



GPIFを巡るESGに関する最近の動向～続き～

• (アプローチ)

GPIFは委託先のアセットマネージャーに対して、ESG要素を考慮した運用を行うことを推奨している。ESG投資はまだ初期の段階であり、一番良いアプローチを模索している段階にいる。但し、それぞれの投資家のアプローチが企業価値を損なっていないことを担保する必要があると考えている。そういう意図のもと、GPIFは2016年4月以降、日本企業にアンケート調査を行った。内容は機関投資家とのエンゲージメントの反応やフィードバックに関わるものである。つまり、投資家が企業を評価するだけでなく、企業が投資家を評価する、という相互評価のプロセスが重要と考えている。

全般的に日本企業をみると、欧米の企業に比べてEやSの評価は著しく低いですが、これは取り組んでいないということなのか、開示が悪いだけなのかよく分からない。GPIFとしてはどうすれば、日本企業がもっとESGのインデックスに含まれるようになるのかを考えていく。理想は、全ての資本市場参加者がESGを考慮して意思決定を行うことと考えている。

• (英国の30%Club、米国の30%Coalition)

GPIFが英国と米国の上記2つの組織にオブザーバー加盟したのは、重要な課題として認識しているというメッセージである。女性活躍(ジェンダー・ダイバーシティを含む)の推進を通じて、世界のリーダー達と意見交換を行うことが目的であって、企業に圧力をかけていこうということでは全くない。

• (ESG指数の検討)

GPIFは現在ESG指数の検討(但し、公募期間は終了)を行っているが、それだけを強制する意図はない。

GPIFは、ウェブ上で9月9日にノルウェー年金基金Global(以下、Global)の運用管理を行うノルウェー中央銀行の監査委員会と意見交換を行ったことを公表しています。Globalはその投資手法や基金の透明性の確保に関してガバナンス先進基金として有名です。GPIFはGlobalをはじめとして、米国の先進的年金基金であるカリフォルニア州職員退職年金基金(CalPERS)やカリフォルニア州教職員退職年金基金(CalSTRS)等とESG投資活動に限らず、今後ますます相互の連携緊密化が予想されます。



「IRカンファレンス2016」のお知らせ(再掲)

日本IR協議会の年次大会「IRカンファレンス2016」が12月15日(木)に開催されます。

【時間】 午前9時30分～午後5時30分

【会場】 ベルサール東京日本橋
東京都中央区日本橋2-7-1 東京日本橋タワー
(前回から会場が変わっていますのでご注意ください)

JSSと三菱UFJ信託銀行は午前のRound1と午後のRound2にそれぞれ分科会を開催します。弊社の分科会の内容は以下の通りです。

「投資家はココを見る ～ESG投資にどう対応すべきか～」

【時間】 午後1時45分～2時35分

【内容】 ESG投資をめぐる状況は大きな変化の兆しを見せています。世界の投資家の注目する、またはこれから注目される、そして日本企業が対応すべき課題は何か。SR/IR担当者が押えておくべき動向を見ていきます。

スピーカー: PRI事務局 ジャパンヘッド 森澤充世氏
JSS 山崎チーフコンサルタント

※分科会は事前申込制で定員制限があります。詳細は日本IR協議会のウェブ
<https://www.jira.or.jp/seminar/conference2016.html> に掲載されておりますので、そちらをご参照ください。